

書評

新人看護師の
成長を支援する OJT

- 著 西田朋子
- 定価 本体 2400 円＋税
- 発行 医学書院

評者

済生会横浜市東部病院 副院長兼看護部長
熊谷雅美

「教えること」が楽しみになる、
指導に広がりを持たせてくれる 1 冊指導経験のある者にとっても、
意味づけが起こる本

「教えることは学ぶこと」である。新人看護師の成長を支援する役割を担うことは、支援をする者が成長する機会であり、看護管理者はそのことを期待して、指導する役割を任せる。初めて新人看護師の指導に向き合うことによって、これまでの手立てでは対応できない状況に出合うことになる。この経験が教える者にとって「一皮むける経験」となり、成長を促すことになる。

「教えること」は、学習者である新人看護師から始まることが大切である。とは言っても、「教えること」にまつわる悩みや迷いは果てしない。ともすれば、教える機会が、教える者にとっての成長の機会ではなく、苦痛の経験になってしまうこともある。

そこで本書は、学習者である臨床現場の新人看護師の姿をもとに、指導や支援のあり方を考え、成長を支援する OJT について、基盤となる考えや理論そして具体的な実行プランを紹介している。初めての指導者にとってだけではなく、指導経験のある者にとっても、自身の経験を振り返り、「そういうことか!」と意味づけが起こり、指導の手立てに広がりを持たせてくれる。

指導の道筋を段階的に整理する

新人看護師にとって臨床現場は、仕事をする場であり、同時に看護を学ぶ場でもある。本書は、新人看護職員研修は職場学習であるという前提で、研修の目的、研修の対象、研修の方法について、的確なエビデンスをもとに書かれている。初めて指導を担当する者が迷わぬように、指導について考えていく道筋を整理し、段階的に順序を追って提示している。

①新人看護師の学び方は成人学習

新人看護師を成人学習者と捉え、学ぶ動機、そして経験から学ぶことの重要性を説明している。

②職場に新人の居場所をつくる

新人看護師の職場適応を組織社会化で考察している。初めに新人看護師を理解するために、じっくり話す時間をつくること、実際にいてよい場所を伝えること、新人でも担うことができる役割を明確にすることが大切であると、組織文化のありように具体的な示唆を与えている。

③OJT、目標共有・シャドウイング・多面的評価の実施

実際の現場で自分がどのように振る舞っていくのかは、現場でこそ学べる。先輩看護師と共に実践の場に参加し、先輩と対話することが重要な学習になる。

先輩は実際に見せ、ポイントを説明し、新人の次の行動につながるフィードバックを行う。できていなかったところは、もう一度正しい方法を実際に見せるというシャドウイングの実践が重要だ。

評価とは次につながる課題を明確にするためのフィードバックであり、評価の意義と種類を理解して、評価という活動をうまく使っていくことが必要である。また一方向からの評価ではなく、多面的な意見による評価が新人の成長につながる。

本書は、筆者の臨床での教育経験を紐解き、その意味を理論や研究結果のもとに客観性を持たせて説明している。読者の指導経験を、本書が経験学習へと巻き込んでくれる。使われている事例は、筆者の臨床現場での実体験であり、「あるある現実」として、読み手を引き付けていく。何より、新人看護師、指導者を愛おしみ、全ての看護師が臨床経験を大切に育ててほしい、「教える」ことを通して育ててほしいという筆者の熱い思いを感じる 1 冊である。